

新版『書写』教科書

Q&A

「書写好き」に

新しい教科書には、これまで以上にさまざまな工夫が盛り込まれています。その一部をご紹介します。

六年間、
私たちといっしょに
学習していきます。



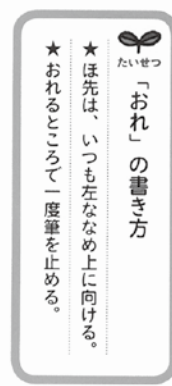
イラスト：及川賢治 (100%ORANGE)

Q1 これまでの教科書と比べて、
どんなところが新しくなりましたか。

A1 学習を焦点化し、シンプルで分かりやすい紙面を実現しました。また、二年以上の全教材に、「たいせつ」を設置しました。

紙面は、いちばん大切なことを大きく、その他の事例は小さく扱うなど、情報に軽重をつけました。ページを開くだけで、その学習の中で何が重要なかが、先生にも児童にもはっきり伝わります。

そこでの学習のポイントをはっきりと示したのが「たいせつ」です。同じ要素をもった他の文字を書く場合にも、「たいせつ」を見れば、何が大事なかを確認することができます。



「たいせつ」は、光村図書『国語』教科書にも登場。

Q2 毛筆教材が右ページではなく、左ページにあるのはどうしてですか。

A2 半紙に文字をうまく書くことよりも、「文字の整え方」を学ぶことを大切にしているからです。

各教材は、①観察や比較を通して「文字の整え方」の原理・原則を発見する、②毛筆で書いて確認する、③硬筆で書いて日常の文字に生かす手がかりにする、という流れになっています。文字の整え方を学ぶことを大切にしたのは、原理・原則を学ばば、他の文字にも広く応用が効くと考えたからです。

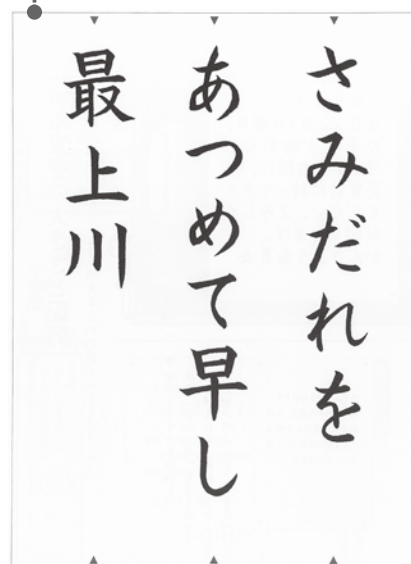
Q3 半紙の枠が紙面に示されていないのは、なぜですか。

A3 教材のねらいに合わせて、半紙の枠を示したものと示していないものがあります。

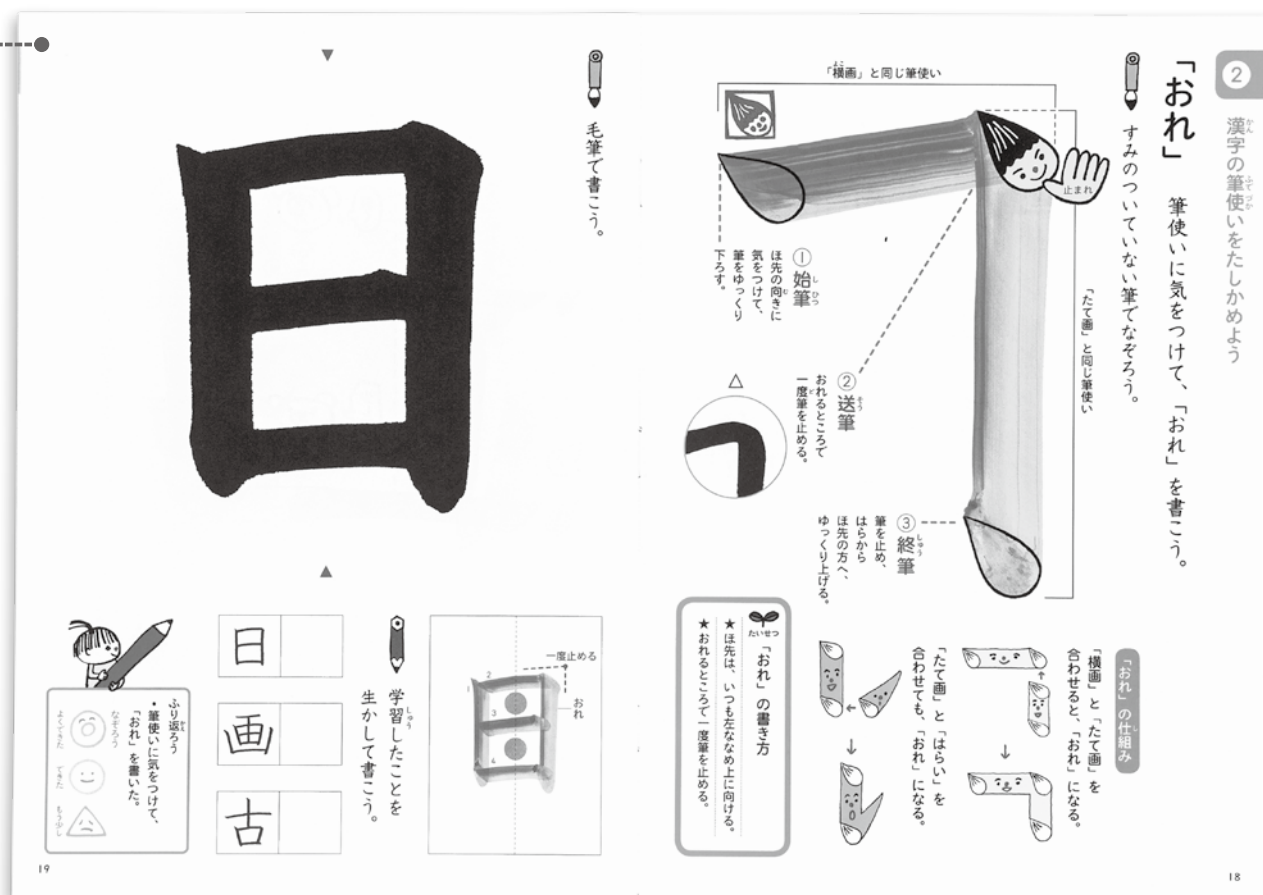
毛筆の筆使いや文字の組み立て方を学ぶ教材では、半紙の中にどう収めるかよりも、筆使いや字形がよく分かることが大事だと考え、半紙の枠を付けずに文字を大きく示しました。一方で、配列を学ぶ教材では、用紙に対してどのように文字を配置するかが分かるよう、半紙の枠を示しました。

文字の組み立て方を学ぶ教材では、教材文字をできるだけ大きく示しました。

配列を学ぶ教材では、半紙枠を示す罫線を提示しました。

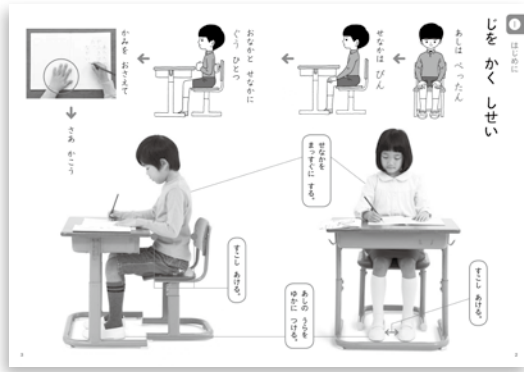


▲「用紙に合った文字の大きさと配列」(6年 P11)



▲「『おれ』」(3年 P18-19)

紙面を見るだけで、何を学ぶのか、何が大切なのかが目で分かります。



▲「じをかくしせい」(1年P2-3)

低学年では、唱え歌に合わせて示すことで、学習習慣が定着するよう工夫しました。毛筆を学習する三年以降も、姿勢や筆記具の持ち方がその都度確かめられるよう、見開き二ページで、これを示しました。

A5

姿勢と筆記具の持ち方が習慣として定着するよう、全学年で丁寧に取り扱いました。

Q5

鉛筆を正しく持てない児童が増えていきます。姿勢や執筆については、どのように扱っていますか。

A6

国語教科書と連動する教材を各学年に設定するなど、学んだことがさまざまな場面で生かすよう配慮しました。

Q6

書写で学んだことを、国語や他教科の学習で生かすために、どんな工夫をしていますか。

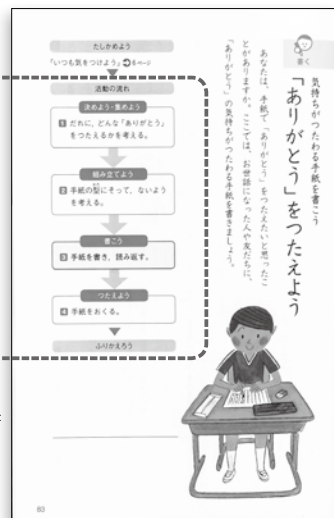
▼国語との関連教材を示すマーク



▲「手紙の書き方」(3年P16-17)

国語教科書と学習内容・題材・学習時期が同じなので、国語と一体的に扱うことが容易です。

▶「国語」教科書(3年上P83)



A4

ここでは、部分の組み立て方を学びます。貼ったりはがしたりしながら、体感的に考えさせることができます。

Q4

四年の十六ページにシールが付いていますが、どうやって使えばいいのですか。

「たれ」の中に入る部分を、中心に貼るとぶつかってしまふ」「少し右に寄せるとうまく収まる」などと試行錯誤しながら、児童が部分の組み立て方を体感的に学ぶことができます。弱粘性のシールなので、何度でも貼り直すことが可能です。児童自身が学習のねらいを明確に捉え、興味・関心をもって取り組めるよう工夫しました。



◀「部分の組み立て方」(4年P16-17) シールを使って主体的に学習することで、理解がぐっと深まります。

教材文字について

新版教科書では、穂先の動きが分かりやすいように、教材文字を墨と朱墨の二色で示しています。文字を書かれた樋口咲子先生(千葉大学教授)にお話を伺いました。

「教材文字を書くときは、素直な『書写』としての運筆を心がけました。穂全体に薄墨をつけ、穂先に朱墨をつけて、点画の接し方が明瞭になるように書いていきます。墨は薄すぎても濃すぎてもだめ。スピードに迷いがあってもだめ。自分の筆の動きがすべて記録されるわけですから、気が抜けません。一教材を仕上げるのに、一時間書き続けたこともあります。

点画がしっかり書けると、子どもたちはとても喜びます。穂先の動きに気をつけると、しっかりとした点画を書くことができるので、教科書やDVDを十分活用していただきたいです。」



▲教材文字を書く樋口先生。(学習指導書付録DVDの撮影風景)